

城北中学校

校長：小俣 力

〒174-8711 東京都板橋区東新町2-28-1 TEL (03) 3956-3157

アクセス：東武東上線「上板橋駅」南口下車 徒歩10分／東京メトロ有楽町線・副都心線・東武東上線「小竹向原駅」下車徒歩20分



HPはコチラ

Information

◆学校説明会【来場型】(要予約)

9月9日(土)・10月14日(土)
11月4日(土)

◆少人数制学校説明会

【来場型】(要予約)

12月23日(土)・12月24日(日)
1月27日(土)・2月17日(土)※上記、学校説明会の日程は一部抜粋した日程です。
掲載している日程以外でも多数開催をしています。

◆入試説明会【6年生対象】(要予約)

【来場型】11月23日(祝)・11月26日(日)
【Youtube配信】11月23日(祝)～30日(木)

◆体験授業(要予約)

10月7日(土):社会(地理)、理科(地学)
10月28日(土):理科(生物) 11月4日(土):算数
11月11日(土):国語(Youtube) 11月18日(土):情報

◆文化祭

9月30日(土)・10月1日(日)



教育方針

深井鑑一郎先生、井上源之丞先生両創立者の提唱した建学の精神を堅持し、青年期の人間形成と大学進学指導の徹底が本校教育方針の二本柱です。

人間形成においては、「着実・勤勉・自主」の校訓のもと、社会に有為なる人間、つまり魅力ある人間の育成をめざし、広々とした校内の施設・緑豊かな環境を最大限に活用して、学習・課外活動の両面から自立のかつ主体的な行動力を高め、個の良さを社会で発揮できる力を養います。

中高一貫教育の実践

平成16年から中学7クラス、高校9クラス編成による中高一貫主体の体制になりました。この一貫教育は、本校独自の3期指導体制のもとで進められています。最初の2年間で基礎期、つぎの2年間で錬成期、最後の2年間で習熟期として3期制をとり、通常の中学・高校とは異なる編成にしています。

主要教科については授業時間を増やし、基礎期では中学各教科の基礎力を着実に身につけます。錬成期の中学3年にあたる時期から高校の教科内容の学習に入り、習熟期になると各自の適性に合わせた多様なカリキュラムの下で、応用力、実践力を磨き上げ、志望大学をめざします。また、音楽、美

術など情操教育や課外活動のための施設、行事も充実しています。



ネイティブ教員との交流

豊かな学園生活のために

本校は35,000㎡の校地に32,000㎡におよぶ全館空調完備の中学棟、高校棟を構え、その中に充実した本格的な専用施設・教室があります。8つの理科実験室、大小16のゼミ室、進学センター、2階建て図書館、中1から利用可能な食堂などを備えています。また、コモンスペース等の生活スペースのゆとりも重視したものとなっています。人工芝グラウンド、25m7コースの室内温水プール、バスケットコート2面のメインアリーナ、卓球場、トレーニングルーム、体育館としても機能する多目的ホールなど体育施設面も充実しています。さらにICT教育のためのiRoomと各教室に65インチ大型モニターが設置されています。

受験生へのメッセージ

中学・高校時代は、子供から大人に飛躍的に成長する時期です。親の保護の下にある自分ではなく、何事に対しても自分が主役となれるよう、社会性やクリエイティビティ、人間性を高め、正しい判断ができたり、責任を自覚できるようにならねばなりません。

本校の校訓である「着実・勤勉・自主」はそれらの実現のための道しるべであり、身につけたい力と言えるでしょう。

積極的に自己の可能性、創造性をはつと追求していく生徒集団。これが本校の求める生徒像です。そうした城北で自分を磨いてみませんか。



特別企画

安田教育研究所

安田 理先生の

がっ こ う た ん ば う

学 校 探 訪



校長 小俣 力



REPORT

城北は進学校としての顔はもちろんだが、数ある男子校の中でも、広々としたグラウンド、弓道場、武道館、温水プールなど運動施設が最も充実している学校としての顔もある。のびのびと運動しながら勉強もしっかりやる学校というイメージだ。そのうえさらに新しいことを試みる柔軟性にも優れている。城北の最近の動きを追ってみた。

都内最大級の人工芝のグラウンド

城北は、東武東上線の上板橋駅から、住宅地を通り、徒歩10分のところにある。学園の正門横には、一本のヒマラヤ杉がある。この杉は、学校が開校するときに植樹されたもので、学校の歴史とともに時間を刻んでいる。

正門を入り、しばらく奥に進むと、一面の人工芝のグラウンドが見えてくる。

80周年記念事業として人工芝に張り替えたものであり、2022年9月に完成した。生徒2,000名が揃って体育祭を行えるだけの広さがあり、豊かな教育環境がまたひとつ増えたことになる。

「昼休みには、生徒が人工芝のグラウンドに寝転がったり、少しぐらの雨であれば授業ができるようになったりして、とにかく生徒が喜んでいる」(小俣力校長)

午前中に雨が降っても、夕方の部活動に使えるので、グラウンドの稼働率が格段に上がっている。元気な男子生徒にとってはまさに人工芝は“救世主”のような存在になっている。



部活風景 サッカー部

順天堂大学との提携

現在、多くの私学が「高大連携」を始めている。今一種のキーワードになっている「高大連携」とは、高校と大学間で教育交流を行い、大学・学部専門多岐な教育を手掛かりにして、高校の教育活動を充実させる活動である。探究的な取り組みや進路選択のためのプログラムなど、多くの学校が取り入れ始めている。

城北では、順天堂大学と「交流事業プログラム」を、大学での学びを知ってもらいたいという目的を達成するために、2023年度からスタートした。

初回は、高1から高3までの3学年を対象としたプログラムを行う。

第一弾：7月19日(水)城北高校で

①医学部をはじめとする大学紹介

②Medit Labの説明・授業

③本校OBの順天堂大学医学部6年生との座談会

第二弾：8月22日(水)順天堂大学で

①「医学の歴史」学芸員と巡る日本医学教育歴史館

②「外科医を体験する」見学や手術器具の操作体験ができるような実習

③「医療の最前線で活躍する医師から教わる」講演会

という、2回のプログラムからスタートする。生徒の志望を見ると、医学部志望が多く、多くの生徒が参加することになりそうである。

「主体的な特別活動の時間」通称0時限

城北は伝統校でありながら、その教育は柔軟性に富む。そう評価している理由は、私学とりわけ男子校のなかでは、いち早くICTの利活用に先鞭をつけたことにある。

この取り組みは、学校としての方針と教師の熱意によるものであった。

また、今回取り上げる活動は、通称「0時限の取り組み」である。このプログラムは、中1から高校3年生までが取り組む。ちなみに、中学1年生は生徒面談、2年生は補習と自習で学力の土台作りを行う時間として確保している。

実際のプログラムは、火曜日から金曜日までの8時15分から9時までの45分を使う。そして、このプログラムは強制ではなく、希望者が参加するというルールであるが、多くの生徒が参加している。プログラムの目的は、「学力向上に加えて、生徒の主体的・積極性を引き出すことをねらい」としている。

教師自身が知恵を絞って考える多彩なプログラム(中3・高1のアカデミック講座)は、スケジュール公開と同時にほぼ埋まる。

クラスを越えてどの講座を選んでもよいという点でも、生徒自身に選択のカードを与えている。つまり生徒が自分で時間の使い方を考えるプログラムとなり、生徒が主体的に関わりを持つ仕組みになっている。

高2の理系クラスの1つでは、「『自分の興味がある理系分野について自由にプレゼン』というテーマだけ与えて、あとは生徒に任せている」(坂内浩之先生)

この時間は話す側、聞く側の双方のモチベーションに大きく寄与しており、生徒自身も楽しみにしている時間となっている。

生徒の主体性から生まれた「文化部フェスタ」

今回、生徒の発案によりユニークな企画が誕生した。そのイベントは「城北学園文化部フェスタ」で、2022年3月24日に開催された。

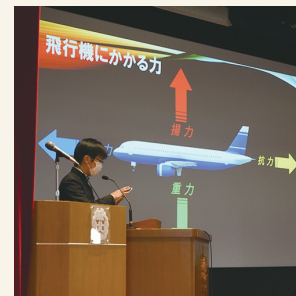
参加団体をあげてみる。演劇部・軽音楽部・ダンス部・グリークラブ・電子音楽同好会・吹奏楽部。展示に参加したのは、鉄道研究部・地学部・化学部・写真部・美術部・地理部・歴史部・語学部と、多彩であった。

この企画は、会場の準備から後片付けまで、生徒自身が責任を持ち運営をすることなどを条件としたが、生徒は十分にその役割を果たすことができた。

学校案内内で小俣校長は「人としての魅力を仲間たちと磨きながら成長させたい」と語っているが、このイベントはその象徴的なイベントと言えるだろう。小俣校長は「生徒はよくわかっていますよ。校長は生徒からの提案に対して、基本、NOと言わないから、いろいろな提案をもってくる」と話す。

今回の取材では、人工芝のグラウンドの完成、高大連携、0時限、生徒企画の文化部フェスタを取り上げた。

いずれの取り組みも、まずは充実した学校生活を送る(送らせたい)ことを考えた実践であり、それは人間形成の教育そのものである。



卒業研究プレゼン